

風格のあるまち川越が恐怖政治に・・・・

なんとしても許してはならない。

川越市民の日、12月1日 ウェスタ川越で、川越市民生委員・児童委員
委嘱式及び感謝状伝達式が行われた。

475名の就任者、202名の退任者が一同に会した会議。
地域福祉の最前線で働く民生児童委員のみなさんが使命感に燃え
臨席したのだ。

川合市長、小ノ澤議長のご挨拶 大変まともであった。
その会議に水を差したのが、横暴な栗原博司市自治連会長の挨拶。
冒頭、栗原氏は長くなると前置き。場内からは失笑がもれた。
長い、長い、来賓あいさつではない、栗原氏の演説。なんと20分。

「息子がさ、市議選挙の補欠にでるからさ、ああなのよ。」という女性たちのささやき。

市長か知事か、国会議員かという大上段に構えた栗原演説。

「私は来年3月で自治連の会長が10年。川合市長より2年長い。最初の選挙の時は立場
もあって川合市長と同じ方向を向いていなかった。が、しかし、意思疎通を早めにして
今は住みよい川越をつくるため、一緒の思いだ。」

いやいや、そんな演説を民生委員のひとたちは期待してないし、聴きたくもない。
自治連会長10年なんて、いかがなものか。そして、その横暴な栗原氏の息子の市議会へ
の参入。さぞかし、薄気味の悪い恐怖政治が待っているのではないか。

分をわきまえないという人間は、公職についてはいけない。大体、会議来賓あいさつで演
説をぶつのは、もっとも恥ずべき行為だ。民生委員は栗原氏の私設機関ではない。自治連
会長、民生委員推薦会会長としても品位がない。あきれた行状を行政新聞に知ってほしく
一筆献上する。